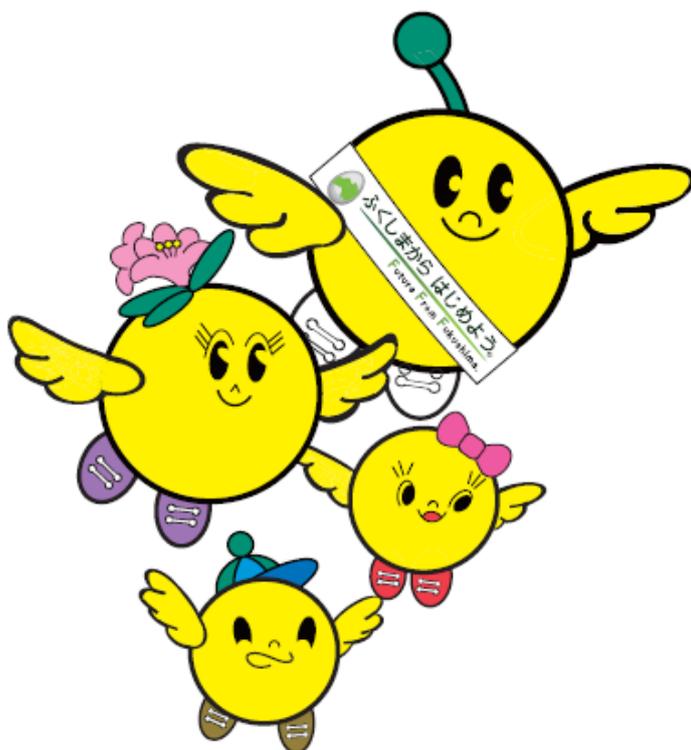


福島県東日本大震災子ども支援基金

事業報告書



福島県復興シンボルキャラクター
「ふくしまから はじめよう。キビタン」

福 島 県

ご あ い さ つ



平成23年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から4年余が経過いたしました。

この間、国内外の多くの皆様から様々な御支援をいただいていることに対し、心から感謝申し上げます。

震災と原発事故は、多くの子どもたちの生活環境を一変させました。県では、被災した子どもたちを長期的、継続的に支援するため、皆様からお寄せいただいた「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を活用し、保護者が死亡したり行方不明となった児童（孤児・遺児）に対する支援に加えて、本県のすべての子どもたちが、様々な困難を乗り越え、心身ともに健やかに育つための施策に活用させていただいております。

これまでの皆様からの温かい御支援と県民の皆さんの懸命の努力によって、福島県は復興に向けた歩みを着実に進めておりますが、道のりは長く、まだまだいくつもの壁が立ちはだかっております。

本県に心を寄せてくださる全ての方々と力を合わせて、ふくしまの明るい未来を切り拓いてまいりますので、今後とも御理解と御支援をお願いいたします。

平成27年9月

福島県知事 内堀 雅雄

福島県の被害状況

平成23年3月11日14:46に三陸沖を震源として発生した「平成23年 東北地方太平洋沖地震」は、マグニチュード9.0を記録し、観測史上最大の地震でした。

最大震度7を記録した激しい揺れとともに、広い範囲で大津波が押し寄せました。



本県では、東日本大震災により、多くの子どもたちが親を失いました。

加えて、原子力災害により、住み慣れた土地からも離れなければならない子どもたちも多く、様々な喪失体験により、幼い心に多大なる負担がかかっています。

しかしながら、このような状況においても、子どもたちが震災前に抱いていたそれぞれの夢をあきらめることなく、着実に前に進んでいくことができるよう、皆様からの善意の寄附をいただき、長期的な支援を行っていきたいと考えております。

「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」について

福島県では、平成23年8月から東日本大震災による震災孤児等への支援のための寄附口座「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」を開設しています。

○ 寄附の状況（平成27年3月31日現在）

寄附件数 10,583件 寄附額 4,247,970,090円

○ 被災孤児、遺児（平成27年3月1日現在）

- ・ 孤児：24人（孤児：両親若しくは単親の場合、現に養育していた親が死亡又は行方不明となった児童）
- ・ 遺児：174人（遺児：両親のうちいずれかが死亡又は行方不明となった児童）

寄附の使い道について

1 福島県東日本大震災子ども支援基金給付金

福島県東日本大震災子ども支援基金条例を制定し、東日本大震災ふくしま子ども寄附金を基金に積み立て、東日本大震災により、保護者が死亡又は行方不明となった児童（孤児・遺児）に対して、生活及び修学を支援するための給付金を給付する事業を実施しています。

1 対象者 東日本大震災により保護者が死亡し又は行方不明となった児童

2 給付期間 大学等卒業までの期間

3 給付金の種類及び金額

（1）月額金

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| ア 未就学児童 | 月額（孤児：30,000円、遺児：20,000円） |
| イ 小・中学校に在籍する者 | 月額（孤児：40,000円、遺児：30,000円） |
| ウ 高等学校等に在籍する者 | 月額（孤児：50,000円、遺児：40,000円） |
| エ 大学及び専門学校等に在籍する者 | 月額（孤児：60,000円、遺児：50,000円） |

（2）一時金

- | | |
|--------------|----------|
| ア 小学校入学時給付金 | 30,000円 |
| イ 小学校卒業時給付金 | 50,000円 |
| ウ 中学校卒業時給付金 | 100,000円 |
| エ 高等学校卒業時給付金 | 300,000円 |

4 給付実績（平成27年3月31日現在）

給付実人員 188人 総給付額 279,920,000円

2 「ふくしま子ども寄附金」による新たな支援について

平成24年12月県議会において福島県東日本大震災子ども支援基金条例の改正が議決され、震災孤児・遺児の支援に加えて、支援の対象を県内全域の子どもたちへと拡大し、下記の5つの視点から新たな支援を行っています。

〔新たな支援の5つの視点〕

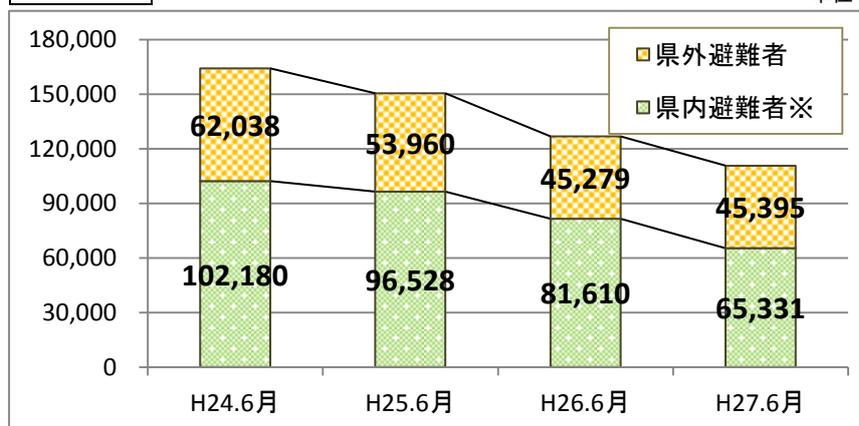
- ① 災害・避難等により不便を強いられている子どもへの支援
- ② 子どもたちの将来につながる取組
- ③ 子どもたち及び保護者が元気になる取組
- ④ 子どもたちのふるさと福島への愛着心を醸成する取組
- ⑤ 子どもたちの本県復興への参画



次ページ以降で、平成26年度の活動事例をご紹介します。

参考資料1 避難者の推移

単位(人)

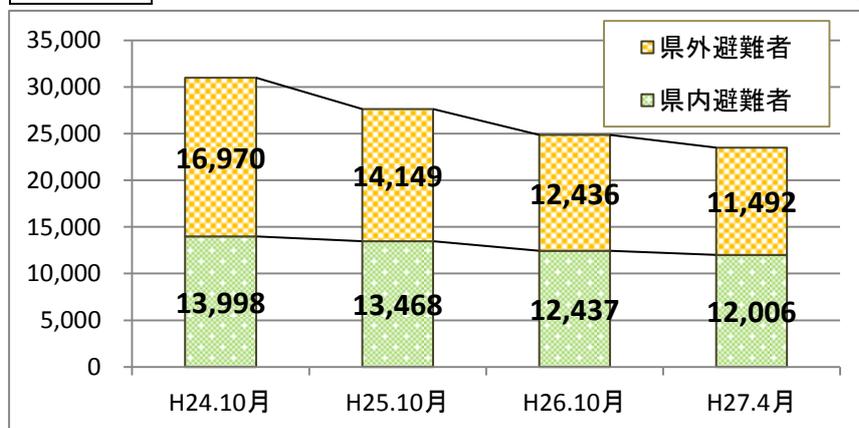


(注) 県内避難者数には、避難先不明者を含む。

出典: 福島県災害対策本部公表資料

参考資料2 子どもの避難者(18歳未満避難者)の状況

単位(人)



出典: 福島県子ども・青少年政策課調べ



子ども「ふるさと福島」魅力発掘プロジェクト事業

1 事業概要

本県の子どもたちが、震災後改めて地域の魅力や素晴らしさを再発見し、新たな観光資源を磨き上げていく取組を推進した。

2 事業実施時期

- ・ 26年6月 活動団体の審査・決定
- 夏～秋 子どもたちが自分で決めたテーマに沿って
県内各地をめぐり、探求し旅行プランを作成
- ・ 27年1月 子ども「ふるさと福島」魅力発掘プレゼン大会を開催



3 参加者数

活動団体 14団体（参加者数253名）

4 事業実施による効果

原発事故や汚染水問題の風評により、「福島」というだけで旅先から敬遠されるなど、次代を担う子どもたちが、ふるさとである福島への誇りや自信を失いかねない状況が依然として続いている。

このような状況において、本事業により、地域の魅力の再発見や子どもたち同士の交流が図られ、地域への誇りや福島県への愛着心を醸成することができた。

5 お問い合わせ先

福島県観光交流局 観光交流課（TEL：024-521-7398）

子どもたちが作成したプラン（一例）





ふるさと「ふくしま」の学び事業（ジャーナリストスクール）

1 事業概要

子どもたち（小学校高学年～高校生）が、復興に向けて取り組んでいる本県の現状や地域の文化、自然等について取材し、地域の置かれている現状や「ふくしま」の未来について考え、新聞にまとめ発信した。

2 事業実施時期

平成26年7月23日～7月25日

3 参加者数

33名（小学生20名 中学生10名 高校生3名）

4 事業実施による効果

子どもたちが復興に向け頑張っている企業や商店に取材を行い、そこで働く方々にインタビューし、仲間と協力しながら記事を新聞にまとめた。このことを通して、子どもたちは福島県の「今」をとらえ、自分をみつめたり、これからの福島について考えを深めたりする良い機会となった。また、新聞を作ることで、情報を正しく伝えることの難しさ、楽しさを学ぶことができた。



5 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 生涯学習課（TEL：024-521-7784）

子どもたちが作成した新聞（一例）





サッカーを通じたふるさと再生事業

1 事業概要

平成23年3月に発生した東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所の事故により一時移転を余儀なくされたJFAアカデミー福島（以下「アカデミー」という。）の選手を本県に招へいし、県内の子どもたちとサッカーを通じた交流を行うことで、県民とアカデミーとの絆の再構築を図った。

(内容)

- ・アカデミーの選手と広野町の子どもたちとの交流
 - ・アカデミーの選手と県内の子どもたちとの交流
- ※福島ユナイテッドFCの協力により、アカデミーの選手とユナイテッドの選手によりサッカー教室を開催



2 事業実施時期

平成27年3月14日～15日

3 参加者数

112名

4 事業実施による効果

サッカーによる交流を通じて、県内の子どもたちに元気を与えた。

5 お問い合わせ先

福島県企画調整部 地域政策課 (TEL: 024-521-7119)

当日の様子



ふくしまの子どもが元気になる情報誌発行事業

1 事業概要

ふるさとから離れて暮らす子どもが依然多い状況を踏まえ、子どもに元気を与え、子育て世代の不安解消につながる情報誌を発行し、県内外の自治体やNPO等の支援団体を通じ、避難者へ提供した。

2 お問い合わせ先

福島県避難地域復興局 避難者支援課
(TEL: 024-523-4157)



子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

1 事業概要

震災で被災して心が傷ついている子どもたちや親たちが本とのふれあいを通して心を癒してもらうため、読み聞かせなどを行うフェスティバルを開催した。

2 お問い合わせ先

福島県教育庁 社会教育課 (TEL: 024-521-7799)

ふくしまキッズ夢サポート事業

1 事業概要

下記の5つの視点で取り組む民間団体からの企画提案を公募し、審査の上、採択事業に対して補助を行った。

- 【5つの視点】
- ① 災害・避難等により不便を強いられている子どもへの支援
 - ② 子どもたちの将来につながる取組
 - ③ 子どもたち及び保護者が元気になる取組
 - ④ 子どもたちのふるさと福島への愛着心を醸成する取組
 - ⑤ 子どもたちの本県復興への参画

2 お問い合わせ先

福島県こども未来局 こども・青少年政策課 (TEL: 024-521-7198)

社会自立を目指すスキルアップ事業

1 事業概要

特別支援学校高等部で取り組んでいる進路に関する学習について、全ての学校の生徒が一堂に会して学習の成果を発表しあったり、外部専門家からの客観的な評価を受けたりすることを通して、生徒の社会参加・自立につながる学力や技能、意欲の向上を図り、震災から立ち上がり自信をもって生きることができる生徒の育成を目指した。

2 お問い合わせ先

福島県教育庁 特別支援教育課（TEL：024-521-7780）

元気なふくしまっ子を育てる食環境整備事業

1 事業概要

東日本大震災後の子どもたちの健康課題へ対応するため、部局連携により、家庭・学校・地域が一体となって食育推進体系を再構築し、指導者の育成や派遣、食体験・交流の取組を通して、「元気なふくしまっ子」が育つ食環境整備を進めた。

- 【取組内容】
- ・スリムアップイベントの開催
 - ・食体験・交流推進活動
 - ・ふくしまっ子ごはんコンテストの開催 等

2 お問い合わせ先

福島県保健福祉部 健康増進課（TEL：024-521-7640）

福島県農林水産部 農産物流通課（TEL：024-521-7354）

福島県教育庁 健康教育課（TEL：024-521-8409）

ふくしまスマイルキャラバン事業

1 事業概要

震災からの復興に向けて、様々なストレスや制限を受けて生活しているふくしまの子どもたちに、心も体も元気になってもらうとともに、ふるさとである福島に誇りを持ってもらうため、県内7地域で応援メッセージ等の展示と子育て応援イベントを開催した。



2 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 こども・青少年政策課（TEL：024-521-7198）

ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業

1 事業概要

福島県が原子力発電の事故により、世界から注目されている中、復興を目指し県民が努力している姿や、その現状を世界の人々に伝えていく必要があることから、将来福島国際化を担うグローバルな人材を育成するために、教育活動の一環として実施する海外ホームステイ研修に参加する県内の高校生に対して、参加経費の一部を支援した。

2 お問い合わせ先

福島県教育庁 高校教育課（TEL：024-521-7773）

子ども未来創造まちづくり事業

1 事業概要

高校生等を対象としたワークショップやフォーラムを開催し、地域の宝の発見やまちづくりについて考える機会を設けた。

【取組内容】

- ・ハイスクールサミット in 東北
- ・喜多方 蔵ワークショップ（高校生対象）
漢字（古代文字）ワークショップ（小学生対象）



2 お問い合わせ先

福島県まちづくり推進課（TEL：024-521-7511）

若者ふるさと再生支援事業

1 事業概要

「ふくしまの復興」をテーマにしたワークショップを開催し、高校生等が復興へ向けた具体的な方策、アイデア等を提案し、そのアイデアを基に復興のための取組を実践した。

- #### 【取組内容】
- ・まちなかスタンプラリーの実施による地域PR
 - ・県外における県産品風評払拭PR
 - ・郷土料理コンテストの開催 等

2 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 こども・青少年政策課（TEL：024-521-7187）

寄附をくださった皆様へのメッセージ

給付金をお届けしている児童・生徒や保護者の方々から、寄附をくださった方へ寄せられたメッセージをご紹介します（※一部内容を編集しています。）。

ありがとうございます。これからも勉強に運動にがんばってゆきたいと思います。目標の高校に入れるようにがんばります。

【中学3年生】

本当にありがとうございます。
たくさんの人達が応援してくれるんだって思うだけでうれしいし、落ち込んでも頑張れる気がします。

【高校2年生】

こんにちは。ぼくは、小学6年生の男の子です。
たくさんのお応援ありがとうございます。
震災の時は、1年生でしたが、6年生になり勉強や高学年のリーダーとして、自覚や責任を持ってやっています。

【小学6年生】

いつもありがとうございます。
元気で高校に通っています。今後ともよろしくお願いします。

【高校1年生】

こんにちは。ぼくは、小学5年生になりました。
震災の時、ぼくは幼稚園の年長組で3月に卒園予定でした。津波でお母さんと弟をなくし、学校で体育の授業でプールに入って水の中に顔をつけることができなくて泳げませんでした。

2年生になってからスイミングスクールに入りました。今は、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、クロールなど泳げるようになりました。これからもずっと続けたいと思っています。

いつもご支援ありがとうございます。

【小学5年生】

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

まい日たのしく学校
へ行ってます。
おとうさんのことをたま
に思いたってさびしい
けどがんばります。
ごしんありがとうございます。
ました。

学校 小学校 ・ 中学校 ・ 高校 ・ その他 ()
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

ご寄付をいただきまして、誠に
ありがとうございます。
皆様にご支援をいただき、私は
教員になるという夢に向かって勉強
することができています。感謝のじと
向上じを持ち、夢を叶えるために努力
していきます。
本当にありがとうございました。

学校 小学校 ・ 中学校 ・ 高校 ・ その他 (大学)
学年 3 年生 ※お名前を書く必要はありません。

突然の出来事から時間が止まったまま。娘は当時中学2年生になったばかり。
一番愛情を求めていた母親に先立たれ、今でも気持ちを癒されず時がたち、高校
3年です。だけど表面には出さず、一年一年と成長し頑張っている姿がはっきり
してきました。

貴重なご支援大変感謝申し上げます。ありがとうございました。

【保護者】

東日本大震災で家は津波ですべて流され、大黒柱である父を亡くし、農家だった
ため仕事はなくなり、生活の先行きが見えず、原発事故により避難生活を送りとも
つらい中、寄附金をいただけたことで、子どもを塾に通わせることができ、希望する
高校へ入学することができ、大変感謝しています。

将来お寿司屋さんになりたいと言っている息子が、夢への一步を踏み出すことが
できたのは、やはりあたたかい支援があったからだと思います。

本当にありがとうございます。

【保護者】



平成27年9月発行

福島県 こども未来局 こども・青少年政策課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話：024-521-7198

E-mail:kodomoseisaku@pref.fukushima.lg.jp

福島県庁ホームページ

[ふくしまこども寄附金](#)

[検索](#)